

# まちの宝物(8) 皇座山(おうざさん)

上関町と柳井市にまたがり、室津半島南端にそびえる「皇座山」(標高526・7メートル)。町民の皆さんにも親しまれ、室津・上関の地域で育った方なら、一度は登ったことがある人も多いのではないのでしょうか。山口県生まれの登山ライター・中島篤巳さんの著書『山口県百名山』(発行・葦書房)でも紹介されています。

皇座山の名前の由来は、次のように伝えられています。



上関港から皇座山を望む

源氏と平家の屋島の戦いに続き、周防の戦いが柳井市池の浦であり、その戦いで破れた平家の一部は安徳天皇を奉じて皇座山を越え、赤間関へ落ちのびました。このとき安徳天皇が山頂でひと休みをされたため、皇の座する山「皇座山」と言われるようになりました。

皇座山は、1500万年前に噴火した死火山で、基盤に花崗岩、表面に輝石安山岩の乗った大規模な火山丘です。山中には、火山灰が固まってできた凝灰岩を見ることもできます。山頂付近は平坦な溶岩台地の草原になっています。

## ◎皇座山へのアクセス

車で皇座山に登る場合は、室津の「皇座山登山口」バス停から上関町民体育館の横

に登るルートと、柳井・平生方面から室津半島スカイラインを通って登るルートがあります。山頂付近に駐車場があり、ここから山頂までは歩いて約15分です。

徒歩の場合は、前記のルートの他に、柳井市相の浦からの登山道があります。歩いて登る場合、室津側からも相の浦側からも、およそ90分で山頂まで登ることが出来ます。

## ◎皇座山山頂付近

山頂には一等三角点(山口県内に16か所設置)が置かれています。残念ながらあまり眺望はよくありません。

駐車場は広く、ベンチや展望所、トイレなどがあり、ゆったりと休憩することが出来ます。展望所からは、平郡島や八島などを望むことができ、視界がよければ、四国も見えます。

駐車場からさらに500メートルほど南側に歩くと、二階建ての展望台があります。ここは駐車場の展望所よりもさらに視界が広がり、長島や祝島方面までも見渡すことができ、美しい瀬戸内の島々をはじめ、遠くは四国や九州まで



展望所の眼下には美しい瀬戸内海が広がる



駐車場に設置されている展望所

望めます。ぜひ、ここまで歩いてみましょう。

## ◎皇座山稲荷神社

駐車場の横には、赤い大鳥居があります。これは皇座山稲荷神社(白雲稲荷大明神)の鳥居です。

商売繁盛の祈願に地元の方だけではなく、近郊の方も、お参りされているようです。



皇座山稲荷神社の大鳥居

## 《皇座山稲荷神社縁起》

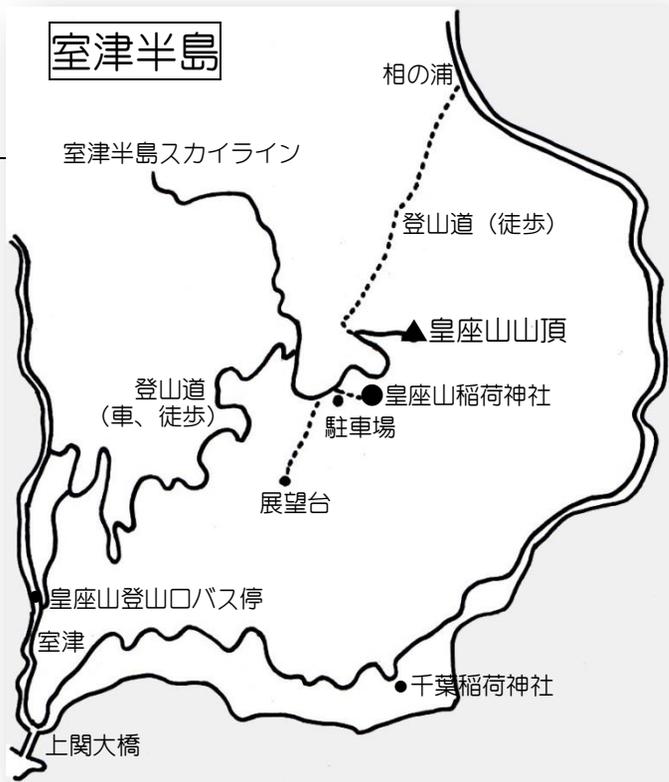
延暦4年(西暦785年)周防国一帯は大飢饉に見舞われ、それに伴う疫病が流行しました。

当時の国司石川宿奈麻呂は、土地の豪いや役人などを連れて上京し、伏見稲荷の祭神である稲倉魂命・猿田彦命・大宮彦命の三体を勧請しました。翌年5年帰郷し、さっそく皇座山に社殿を建て、勧請してきた三体の祭神を安置しました。



商売繁盛祈願に訪れる人が多い

## 室津半島



◎「わいわいタイムス」7月号は7月6日(日)発行予定です。

その後、大内時代には大内家祈願所となり、源義経や豊臣秀吉が武連長久、必勝祈願に訪れるなど、遠くから多くの参詣者が訪れていたようです。

## 《稲荷さん縁起》

- ・千日参り【毎年旧暦八月十二日】
- ・稲荷大祭【毎年十一月二十二日】

## ※口コミ情報

皇座山の南麓にある千葉岳(せんばだけ)の山頂には千葉稲荷があり、皇座山稲荷と合わせて参詣すると諸願成就するといわれています。



千葉稲荷 山頂の祠堂